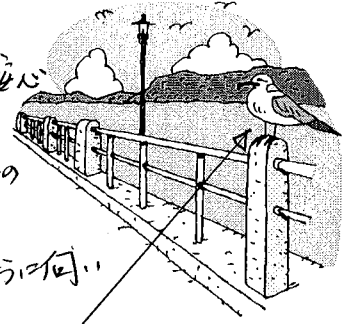


七月のテーマ
喜働

7/12(土) まじ! 倫理号です。早朝の地震速報が津波情報と共に来たり
又東日本 福島、岩手地方 まじか!

目はどこに 向いているか

幸いにか 20am くらい 安心
です。世の為人の爲
には 行動する者には心の
目を向ける
皆さんはどちらに向い
ているでしょう。
と 運ぶアホ-鳥



え・小島サエキチ

経 営コンサルタントとして、
顧客リピート率100%の

実績を上げている安澤武郎(やすざわたけろう)氏。人生の核として打ち込んできたのが、アメリカンフットボールです。

スポーツ推薦ゼロの京都大学で、学生日本一を二度経験。オールジヤパンにも四度選出されました。アメフトから学んだこととして、安澤氏は「正解を探すより、自分の選択を正解にする」という姿勢を挙げています。

正解がわかってから動くのでは遅いアメフトの試合。多少のリスクを冒しても、これだと思ふ動きにかけ、一歩踏み出したら、その選択を正解にするよう動く。自らの経験に基づくこうした理論が、氏の経営コンサルティングの原点になっています。

その安澤氏が今、多くの企業と接する中で、「停滞する企業では、本来の目的や成長が失われている」と実感しています。

「経営者やベテランなど先頭を走る人が成功体験に縛られ停滞する」と、組織の活力は失われます。それを見ている若い社員も失敗を恐れて新たな挑戦をしなくなる。過去の成功体験を捨てて挑戦することが必要なのです。

では、なぜ成功体験を捨てて挑戦できない企業があるのでしょうか。それは、目を向ける先が会社のため、もしくは自分のためになっていくからではないでしょうか。

本来、企業が存在するのは、お客様や地域に貢献するためです。これはいつの時代も変えてはならない「不易」の面でしょう。

そのお客様に喜んでいただくために、時代によって変わる年度方針や商品、サービスなど「易」の面があります。自社にとっての易と不易を正しく捉え、「お客様に喜んでいただくには」という熱意とサービスの発信が、企業の更なる発展へと還元されるのです。

最も己を大切にすることは、自己の個性(たち)を、出来るだけ働かすことである。それには、仕事をなまけ、研究を怠り、身をおし

んでいては、とても出来ることではない。『万人幸福の葉』丸山敏雄

この言葉は、世のため人のための働きこそ、自分を大切にすることに繋がるのだと教えてくれます。人を大切にできずに、自分も自社も大切にはできないでしょう。

昨年末に内閣府が世界七カ国(日本、韓国、米国、英国、ドイツ、フランス、スウェーデン)の若者に行なった意識調査によると、「自国のために役立つことをしたい」と答えた日本の若者の割合は、54・5%にのぼり、七カ国中、一番多かったそうです。こうした若い世代の秘めたる思いを引き出し、形にするのが企業であり、経営者の役割でしょう。

まずはトップたる経営者が、自分自身の内面を見つめ、目を向けるべき優先順位を再確認して、世のため人のために行動していく時、社員も一丸となって、現状を打破・改善していく活路が見出されるのではないのでしょうか。

参考資料:『朝日新聞』5月26日「あの人とこんな話」、『産経新聞』5月26日「内閣府意識調査」